

第3章 住宅政策の方向性



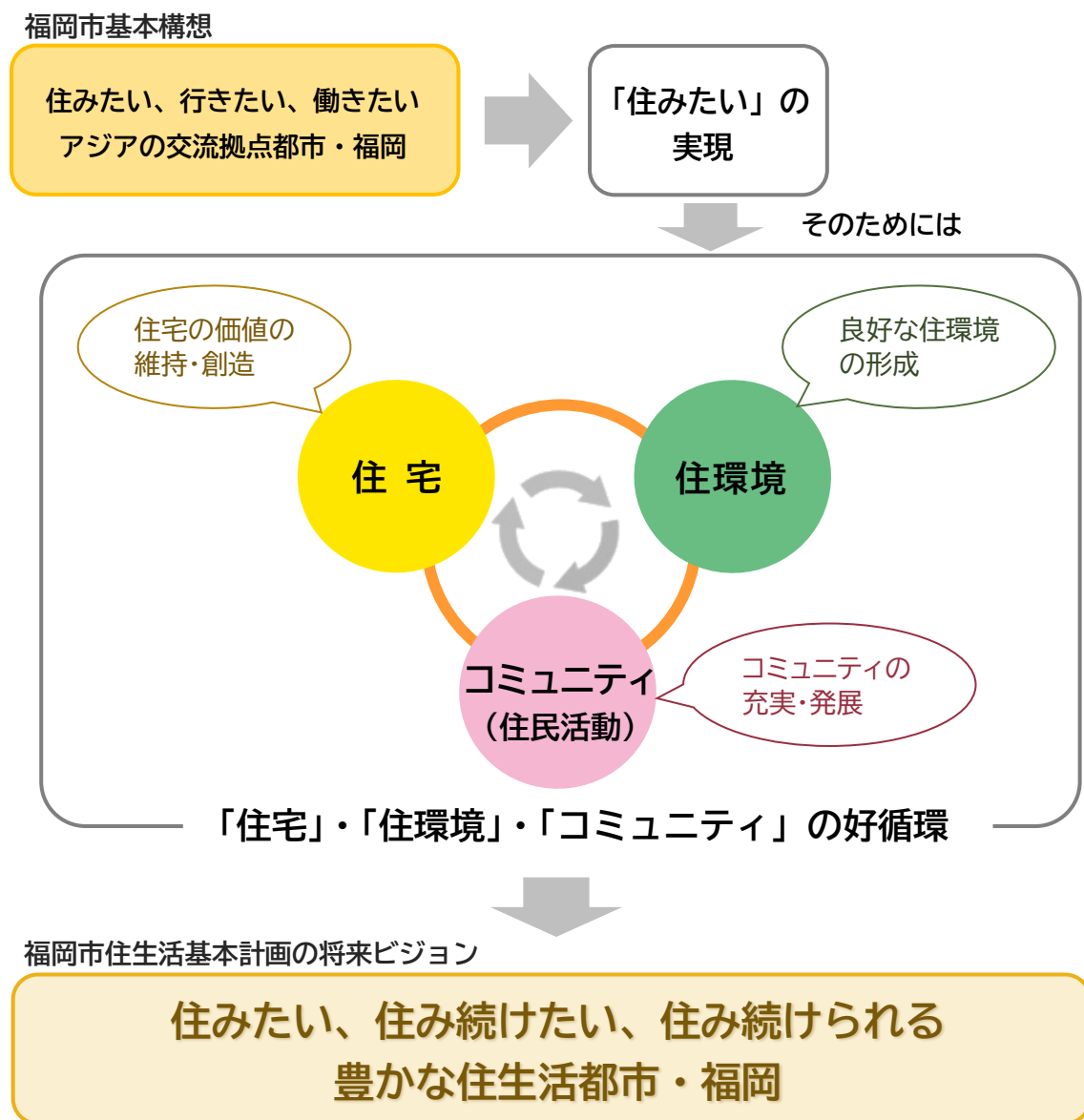
第3章 住宅政策の方向性

3-1 将来ビジョン

福岡市住生活基本計画は、住生活をめぐる課題や福岡市基本構想の都市像を踏まえ、「住みたい」の実現を図るための計画とします。

そのためには、身近な住生活を良くすること、すなわち、隣近所とのコミュニティ(助け合い・見守りなど)の充実・発展が必要不可欠です。コミュニティの充実・発展は良好な住環境の形成や住宅の価値・創造の好循環に寄与すると考えられます。

住宅・住環境・コミュニティの好循環によって、豊かな住生活が営まれる都市を目指し、「住みたい、住み続けたい、住み続けられる 豊かな住生活都市・福岡」を将来ビジョンとして設定します。



3-2 基本目標と横断的な視点

将来ビジョンの実現に向け、住生活の現状と課題や上位計画等を踏まえ、基本目標を以下の通り定めます。

(1) 基本目標

1	みんなにやさしい居住環境の形成
<p>安心して暮らせる住まいづくりやライフステージに応じた支援の充実などにより、高齢者世帯や子育て世帯が住みやすい居住環境の整備を進めるとともに、すべての人にやさしいまちの実現をめざし、ユニバーサルデザインの理念による住まいづくりやまちづくりを進めます。</p>	
2	住宅セーフティネットの充実
<p>市営住宅を中核としつつ賃貸市場全体で住宅確保要配慮者が安心して暮らせる住まいの確保を図るとともに、多様な主体や福祉施策との連携により、入居から退去まで切れ目のない支援を図るなど、住宅セーフティネットの充実を進めます。</p>	
3	豊かさと安全・安心をそなえた住生活の実現
<p>安全・安心な住生活の実現に向けた災害に強く防犯性の高い住まいづくりやまちづくり、脱炭素社会の実現に資する環境に配慮した住まいの整備、住生活を支えるコミュニティの形成を促進するとともに、地域の魅力・特性に応じた取組みにより、住み続けられる居住環境づくりを進めます。</p>	
4	良質な住宅ストックの将来への継承
<p>良質な住宅ストックを将来に継承するため、マンションの管理適正化や再生への支援など、良好なマンションの形成に向けた取組みを進めるとともに、空き家化の予防や多様な利活用など、空き家対策に取り組めます。</p>	
5	活発な住宅市場の形成
<p>既存住宅の流通やリフォーム市場の活性化を促進するとともに、住まいや住替えに関する情報提供・相談体制の充実を図るなど、住宅市場の環境整備を進めます。</p>	



(2) 横断的な視点

住生活の現状と課題や第10次福岡市基本計画等を踏まえ、豊かな住生活の実現に向け、住宅の確保に配慮が必要な方にしっかり対応するとともに、「ダイバーシティ(多様性)」、「脱炭素社会の実現」、「DXの推進」の3つを横断的な視点として設定し、施策の展開方向に反映します。

① ダイバーシティ (多様性)

ダイバーシティ(Diversity)とは、多様性を意味し、年齢や性別、国籍、人種、宗教、価値観、障がいの有無といった様々な属性をもった人々が、地域・社会の中で共存・共生している状態を指しています。

福岡市では、誰もが思いやりをもち、年齢や性の違い、国籍、障がいの有無などに関わらず、すべての人にやさしいまちの実現をめざし、ソフト・ハードの両面から取り組んでいます。

② 脱炭素社会の実現

脱炭素社会とは、地球温暖化の主な原因となる温室効果ガスの排出量「実質ゼロ」を目指す社会のことです。「排出実質ゼロ」とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、植林、森林管理などによる吸収量を差し引き、実質的にゼロにすることを指しています。

福岡市では、2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロを目指し、脱炭素社会の実現にチャレンジすることを表明しており、住まいや設備のエネルギー効率の向上や長期活用、再生可能エネルギーの導入、脱炭素型交通の促進、緑化や木材利用の促進などに取り組んでいます。

③ DXの推進

DXとは、デジタル・トランスフォーメーション(Digital Transformation)の略称で、ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させることを指しています。

福岡市では、AIやIoTをはじめとするデジタル技術やデータの積極的な活用により、手続き等の利便性向上や日常生活等の課題解決、地域活動・経済活動の活性化や行政事務の効率化などに取り組んでいます。

